

## 平成23年度第2回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

日 時：平成24年3月23日（金）午後2時から4時20分まで

場 所：愛知県立大学 学術文化交流センター多目的ホール

出席者：委員11名（代理含む）、事務局（愛知県地域振興部長、沿線市担当課長 他）

### 開 会

#### 1 あいさつ（愛知県地域振興部長）

リニモは、まだまだ苦しい経営状況ではあるが、大学を始め、地域の関係者の皆様のご支援をいただき、着実に利用者を増やしている。

しかし、長期的な観点から利用者の増加を図っていくためには、やはり、観光など交流の拡大と駅周辺でのまちづくりを進め、地域を活性化させることが不可欠と考えている。

今年1月、長久手で市制が施行され、長久手市が誕生し、これを機会に、テレビや雑誌など様々なメディアでこの地域が紹介された。

また、沿線各市では、積極的に駅周辺での市街地整備に取り組んでいただいております。着実にまちづくりが進められている。

本県としても、先月に一部施設がオープンした知の拠点や、来月サイクリングコースがオープンするモリコロパークなど、交流の拠点となる施設の整備を進めており、今後、より一層多くのお客様が、リニモを利用して来ていただけると期待している。

本日は、会議の後半で、3つのグループから沿線地域づくり活動の成果報告を行っていただくが、こうした様々な立場の方々にご活動いただいていることも大変心強く感じている。

委員の皆様におかれましては、今後とも、沿線地域づくり構想の推進に、ご意見やご提言を賜りますようお願いしたい。

#### 2 議題

##### (1) 愛知県・沿線市の取組について

事務局から資料1～5を説明

#### 【委員及び事務局からの主な発言】

##### ○委員長

近年では、皆様のご協力で、ランニングコストを黒字化できる状況になっており、利用者も順調に伸びている。モリコロパークのこどものひろばや、市が進めている区画整理の進捗により、まだ伸びしろがあると思う。

##### ○委員

リニモ沿線地域の人口が増え、リニモの利用者数も順調に増えており、この地域は、全国的にみて、発展しているすごい地域であると思う。

しかし、いろいろな課題はあるものの、この地域が発展していることが、地元の方々に十分に理解されていない気がする。リニモ沿線地域には大学が多くあるため、この地域の変化や発展している様子を研究し、その成果を市民にわかりやすく示していただきたい。また、行政には、そのような研究に対して助成を考えていただきたい。

リニモは供用開始から 10 周年を迎えるので、記念誌などを作成してもよいのではないか。

#### ○事務局

研究助成については予算的な課題があるが、リニモ沿線地域の変化や発展の様子を市民にわかりやすく発信することは、リニモ沿線地域づくり調査研究会が実施する支援事業の取組のひとつとして考えられる。

#### ○委員長

リニモ沿線のそれぞれの大学でリニモ沿線地域の研究を行い、研究内容を発表していただくことは、大きな費用をかけずにできると思う。

大学での研究は少しレベルが高いが、記念誌の作成は、大学コンソーシアムの手がかりになるかもしれないので、学生に取組んでいただけるとおもしろい。

#### ○事務局

リニモ沿線地域が発展していることを、地域の方にわかりやすく示すなど、地元に対する愛情を高めるような研究や PR を行なっていこうという提案はありがたい。

#### ○委員

瀬戸市は、陶磁資料館をマグネットにして、瀬戸のまちにお客様を引っ張るというように、リニモを活用させていただきたいと思っている。

資料 4 において提案されているように、グリーンロードやリニモに乗っているお客様に、陶磁資料館南駅から陶磁資料館がすぐ近いということを示す取組は早く実現していただきたい。

リニモから歩いて陶磁資料館へ行って、焼き物の魅力に触れられた方が、焼き物のリアルな現場を見るために瀬戸のまちを訪れるという流れができれば、瀬戸市はよりリニモの利用促進に協力ができると思う。

#### ○委員長

愛知県立大学の入り口もわかりやすくなったので、陶磁資料館も同じように存在をわかりやすくしていただきたい。

そして、イベントとリニモの切符をセットにすることで少し割安にして、名鉄バスで瀬戸市のまち中に行くというような取組ができるとおもしろいと思う。

## ○委員

愛知環状鉄道の方から、おもしろいアイデアを伺ったのでご紹介したい。

平日及び休日の利用客を確保するため、豊田スタジアムのイベントのチラシを車内の中吊りに無料で掲載するなど、双方にメリットになる取組を積極的に展開していくそうだ。

また、昨今の健康ブームとして、名所、旧跡、グルメを混じえたハイキングコースを設定し、特に昼間の高齢者の利用を促進したいと取組んでいるそうだ。

健康ブームのひとつとして、サイクリングに関して、自分の自転車を車内に持ち込むこともおもしろいと思った。

さらに、周辺の状況を十分調査したうえで、駅前の広場を、若者の楽器の演奏やダンスの場に提供することも考えているそうだ。

## ○委員

陶磁資料館へのプロムナードについては、モリコロパークの東の端から陶磁資料館への導線も考えていただきたい。

## (2) リニモ沿線地域づくり活動促進事業の成果発表（実施グループからの報告）

事務局から資料6を説明

活動グループから資料6-1～6-3を説明し、その後質疑応答

## ○委員

リニモのがたりの活動では、マップに、いろいろな店舗情報が、公共交通機関を利用することによるアクセス方法の情報提供も含めて掲載されており興味深い。公共交通は、どうしても帰りの時間がネックになってしまう。帰りの時間が読めないことや、帰りのバスの時間に合わせて店に滞在できないことが、公共交通機関を利用するうえで限界となってしまう。

周辺の観光地や時間が潰せる場所の情報もセットで提供されると、よりよいと思う。

## ○委員

フィール・ザ・ワールドの取組は、愛知万博の成果を継承するイベントということで、よい視点であると思う。

瀬戸市も様々な世界の都市と交流姉妹都市を締結しているが、交流が限定的で、市民に意識が広がっていないので、各市の交流姉妹都市を取り入れることによって、より事業に広がりができるのではないかと思った。

## ○委員長

名古屋商科大学の取組でもみられるように、スイーツを活用した取組は各地で見られる。地元との連携を強くしていくことも重要だが、他に何か良い方策はないか。

### ○発表グループ

地域の農産物を活用するひとつの方法としてスイーツがあるが、スイーツで地域の農産物を活性化することは限定的であるので、同時に、給食や、地元のカフェやレストランなどのネットワークを構築して広げていくことが必要である。

地域の農産物を活用したスイーツも地道に認知度を向上させていく必要があるので、自立したかたちでスイーツ展を今後も開催していきたいと考えている。

### ○委員長

リニモ沿線地域を材料にして各グループが勉強し、その勉強した結果を、再びリニモ沿線地域に還元させていくということが、支援事業の成果であると思う。

リニモの利用者が伸びているということが、この地域の元気の源になると思う。県施設のさらなる整備や、各市の取組が進んでくると、より利用者が増えるのではないかと思う。

JRや地下鉄等では、4月からICカードの相互利用が可能となるが、リニモはマナカが使用できない。リニモを利用する方の利便性の向上も、今後の検討課題である。

また、ピーク時とオフピーク時の料金を変えることにより、オフピーク時の利用者を増やすことも、ICカードであるとやりやすくなると考えられる。

## 3 その他

リニモ沿線地域づくり会議は、平成24年度も引き続き開催し、夏頃に第1回会議を開催する予定。

また、地域づくり活動への支援事業は、平成24年度も実施する予定。

閉 会

(以上、文責事務局)